こちら航空宇宙推進室　ニュースレター

「たいき宇宙デー」開催！

11月2日、町民宇宙イベント「**たいき宇宙デー**」を開催しました。町が進めている「北海道スペースポート（HOSPO）」の整備状況や「宇宙のまちづくり」の理解促進を目的として、昨年に引き続き2回目の開催です。当日は約120名の方にご参加いただきました。

６月に延伸工事が完了した1,300ｍの滑走路をはじめ、ロケット射場（Launch Complex-0(LC-0) ・ Launch Complex-1(LC-1) ）やインターステラテクノロジズ社が開発中の人工衛星搭載用ロケット「ZERO」の推進剤タンク試験用の構造試験棟を見学しました。

人工衛星用ロケット射場LC-1では、現在建設中の煙道を見学いただきました。煙道は、ロケット打上げ時の燃焼ガスが通るトンネルで、打上げ時の噴煙によるロケットの機体や衛星へのダメージを軽減するために重要な設備です。工事が完了する頃にはトンネルを埋め戻すため、内部の構造は今しか見ることができない貴重な機会です。

また、LC-1に隣接するインターステラテクノロジズ社がMOMOを打上げた射場「LC-0」や工場など普段見ることができない施設を見学し、現在の宇宙の取組について理解していただく機会となりました。

＜LC-1＞

＜煙道＞

＜LC-0＞

＜IST工場＞

新たに15社から企業版ふるさと納税の寄附

北海道スペースポート（HOSPO）プロジェクトの資金として、2024年4月から9月までの間に、北海道内外の15社から企業版ふるさと納税の寄附をいただきました。

町では、ロケット射場や格納庫など北海道スペースポートの施設を拡充する「ハード整備」と、町内の宇宙関連企業をサポートする「ソフト支援」の2本柱でHOSPOプロジェクトを推進しています。

寄附金は、現在工事を進めている人工衛星用ロケット射場**「Launch Complex-1(LC-1)」**の整備資金やインターステラテクノロジズへの支援などに活用します。

今回の寄附により、2020年度～2024年度までの合計で、プロジェクト全体で延べ255社から28億20万円のご支援となりました（ハード：11億9,080万円・ソフト：16億940万円）。

銀河連邦フォーラムへ参加

10月4日～5日、秋田県能代市で開催された「**銀河連邦フォーラム**」に参加しました。

銀河連邦は、JAXAの研究施設がある自治体で構成した交流組織のことで、大樹町は「タイキ共和国」として2010年により活動を行っています。

フォーラムでは、各共和国との情報交換のほか、内之浦宇宙空間観測所から打上げらているイプシロンロケットのエンジン燃焼試験の実験場や、エネルギーのまちとして先進的に取り組んでいる洋上風力発電などの発電施設を視察しました。

また、のしろ産業フェアへも参加し、じゃんけん大会や銀河連邦物産展で、大樹町の特産品をPRしました。

ビジネスEXPOに出展しました

11月6日～8日にアクセス札幌で開催された北海道最大級のビジネスイベント「**ビジネスEXPO**」に、NPO法人 北海道宇宙科学技術創成センター（HASTIC）とSPACE COTANとともに出展しました。

北海道スペースポートの取り組みのほか、宇宙遊覧フライトを目指す岩谷技研のキャビンの展示など、道内で行われている宇宙開発の取り組みを紹介しました。

2日間合計で2万人超が訪れ、北海道スペースポート整備資金とする企業版ふるさと納税の寄附営業やビジネス交流の機会となりました。

■お問い合わせ　大樹町企画商工課航空宇宙推進室　TEL：01558-6-2113